

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

事業計画及び成長可能性に関する事項

フィーチャ株式会社（東証グロース4052）

- 
1. 会社概要
 2. 事業内容
 3. 市場環境
 4. 当社の強み
 5. 成長戦略
 6. リスク情報

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

- 
1. 会社概要
 2. 事業内容
 3. 市場環境
 4. 当社の強み
 5. 成長戦略
 6. リスク情報

Make Things Intelligent

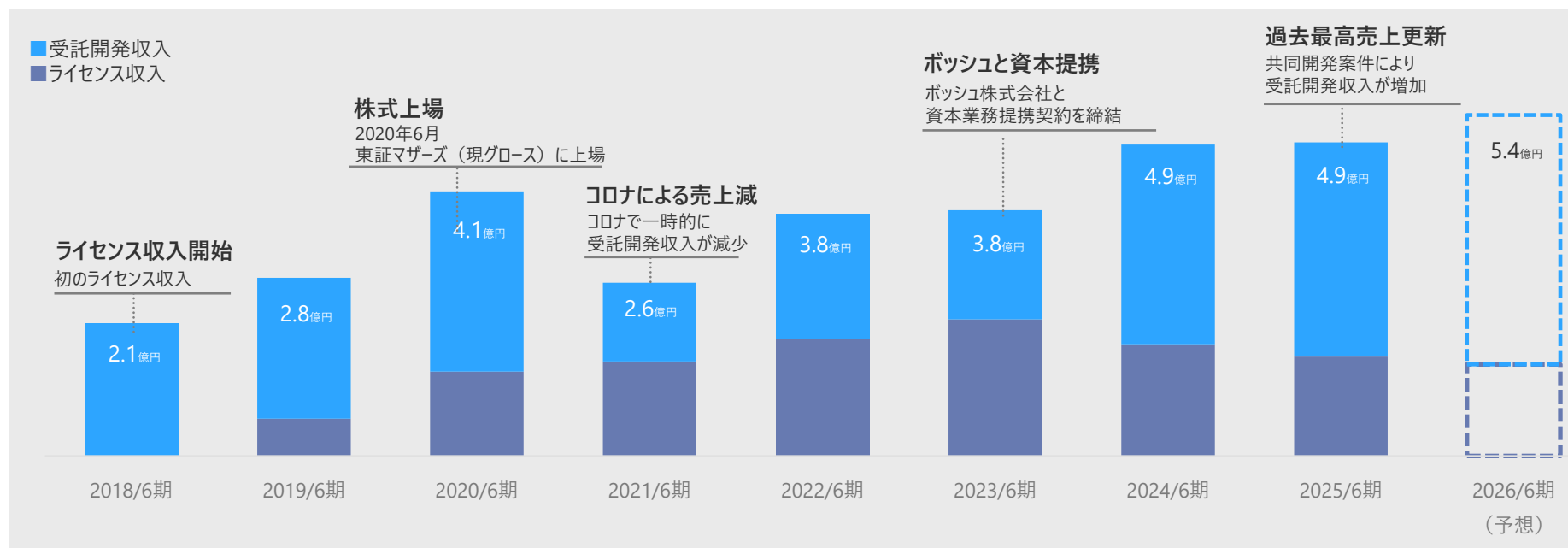
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

社 名	フィーチャ株式会社
代 表 者	代表取締役社長CEO兼CTO 曹 暉
住 所	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 19F
創 業 年 月	2005年8月
資 本 金	383,506千円 ※2025年6月末現在
従 業 員 数	41名（非正規 14名） ※2025年6月末現在
事 業 内 容	画像認識AIソフトウェア開発及び販売

Make Things Intelligent

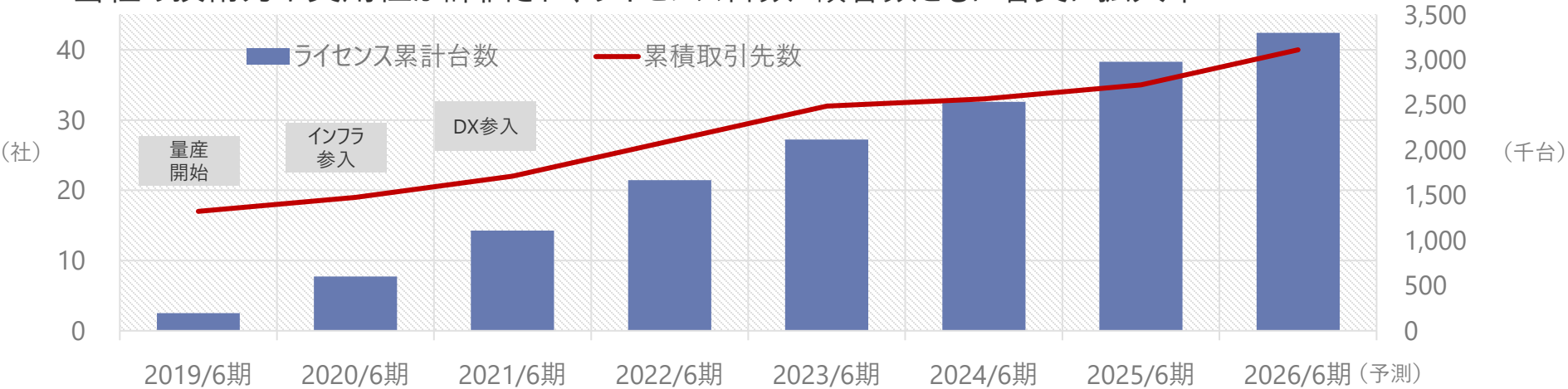
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、

スマート社会の安全や安心、効率に貢献します



*2026/6期（予想）は、2025年8月14日に公表した予想数値を記載しております。

- 2019年からモビリティ関連の量産を開始し、現在までに累計ライセンス台数**290万台**を突破
 - OEM、Tier1とのパートナーシップをはじめとした、複数顧客との**共同開発**を実施
 - 2020年から、事業多角化を見据え、応用技術の活用による**スマートインフラ事業**や**D X 事業**に参入
- 当社の技術力や実用性が評価され、ライセンス台数・顧客数ともに着実に拡大中



- 国内外の自動車メーカー量産案件に、当社技術提供済み
- 現在も複数のADAS及びDMS案件が量産開発中

※各年度、6月決算

量産中案件	取引先	国内Tier1	BIPROGY(株)	海外Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1	国内Tier1
	案件概要	ドラレコ用 ADAS	ドラレコ用 ADAS	車載カメラ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS	車載カメラ用 ADAS	ドラレコ用 ADAS・DMS	ドラレコ用 ADAS・DMS
	量産開始時期	2019年	2019年	2019年	2020年	2021年	2021年	2023年	2023年

- 
1. 会社概要
 2. 事業内容
 3. 市場環境
 4. 当社の強み
 5. 成長戦略
 6. リスク情報

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

Mobility Solutions

車載カメラ及びドラレコ向け画像認識ソフトウェアの開発
低計算コストかつ優れた精度、カスタマイズ性により、
多数の自動車メーカー、ドラレコメーカーに採用



ADAS 先進安全支援システム

前方車・歩行者衝突、交通違反などの危険運転をリアルタイムで判定し、事故防止を支援



DMS/OMS ドライバー/乗員監視システム

ドライバーの運転状態を監視し、危険運転・事故防止を支援

DX-AI Solutions

自社開発の画像認識モデルとLLMにより、あらゆる
文書・図面を瞬時に理解
柔軟なカスタマイズで現場フローにフィットし、業務
効率を飛躍的に向上



AI-OCR 文字認識／文書解析AI

高精度文書認識・自動データ抽出



Drawing-AI 図面解析AI

建設・製造業向け図面自動解析・データ化



AIインテグレーション

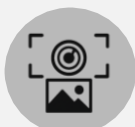
コア基盤技術を用いたAI開発



AIコンサルティング

AI導入の上流から下流までトータルサポート

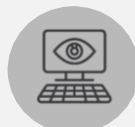
ソリューションを支える当社の基礎技術



画像認識



ディープ
ラーニング



コンピュータ
ビジョン



エッジAI



LLM



RAG



Agent



アプリ開発

2026年6月期より「Mobility Solutions」と「DX-AI Solutions」へ事業区分を変更

Before

モビリティ事業

車載カメラ及びドラレコ向けの画像認識ソフトウェアを開発

スマートインフラ事業

モビリティ事業で培った技術をインフラ向けに応用

DX事業

高精度AI-OCRや軽量でマルチモーダルなLLMにより、企業の様々なDX化を支援

After

Mobility Solutions



ADAS

先進安全支援システム



DMS/OMS

ドライバー/乗員監視システム

DX-AI Solutions



AI-OCR

文字認識／文書解析AI



Drawing-AI

図面解析AI



AIインテグレーション



AIコンサルティング

世界トップレベルの技術力×豊富な経験・ノウハウで、お客様のニーズに沿った最適なライブラリをカスタマイズし提供

提供技術実績抜粋

歩行者検出

顔認証

信号検出

危険運転検知

車線検知

よそ見検知

ナンバー検知

表情、感情認識

フリースペース検知

視線検知

標識検出

居眠り検知



- 当社のターゲットとする市場は自動運転レベル0～3
- 今後市場規模の拡大が確実に見込まれ、完全自動運転が浸透しても継続的な需要が見込める
- 軽量かつ高性能な強みを活かし、他社との差別化を図る

システム種別		概要	市場動向	市場規模予測 (2035年) *1
完全自動走行システム	レベル5	完全自動運転	世界的IT企業や自動車企業が巨額の投資を行って研究開発中。インフラの整備や法規制整備に課題があり、本格的な投入時期としては2030年代以降となる見込み。	606万台
	レベル4	特定条件下における完全自動運転 (例) 高速道路での完全自動運転		
準自動走行システム	レベル3	条件付自動運転 (例) 自動運転だが人の介入が必要	運転手の介入が必要なためドライバー監視システムの需要が急拡大。	652万台
	レベル2	特定条件下での自動運転機能 (例) 車間距離制御、自動駐車	当面はレベル2に対応した車両が自動運転車全体の市場を牽引。	5,744万台
安全運転支援システム	レベル1	運転支援 (例) 自動ブレーキ、車線維持支援	ADAS機能搭載の義務化が各国で進み堅実な市場拡大が見込まれる。	1,396万台
	レベル0	運転支援（自動化なし） (例) 危険を知らせるアラート機能	安全運転意識の高まりから、ドラレコの高機能化や後付けADAS機能のニーズが高い。画像データの応用ニーズも拡大。	—

フィーチャの
ターゲット

*1 矢野経済研究所「自動運転システムの世界市場に関する調査を実施（2024年）」

- 車室外だけでなく、車室内のセンシングにも注力
- ドライバーの不注意、眠気、危険動作を検知し、安全運転に寄与
- 車室内の人の年齢・性別、感情、行動を認識・分析し、将来的には安全性だけでなく、健康、快適性、エンターテインメント性を向上させる機能の実現に取り組む



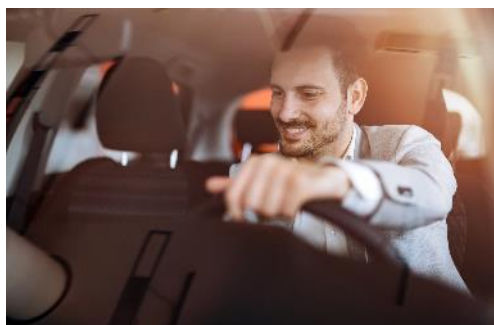
顔認証

- ドライバーを識別し、シート位置を自動調整



危険運転検出

- 運転中の電話、飲食、喫煙を検出



よそ見検出

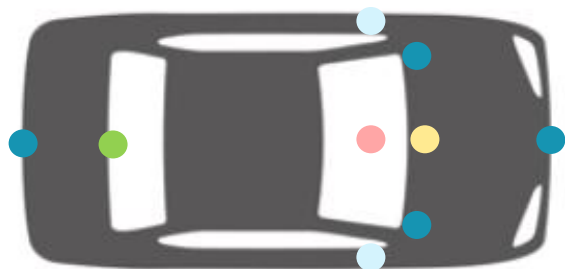
- 顔の向き等から運転中のよそ見を検出



居眠り検出

- 目の状態、顔の角度、あくび頻度等から居眠り状態を検出

■ 新車向け車載カメラ、ドラレコカメラのトータルソリューション



種類	カメラ	製品	当社 開発実績	当社 量産実績
新車向け	サラウンドカメラ	ADAS	○	○
	電子ミラー	ADAS	○	—
	車内カメラ	DMS	○	○
保有車向け (ドラレコ)	フロントカメラ	ADAS	○	○
	リアカメラ	ADAS	○	—
	車内カメラ	DMS	○	○

新車及び保有車向けにADAS、DMSを提供可能

- 量産製品に対応する開発案件を受注し、開発後、粗利率100%のライセンス収入につなげる
- 多数のライセンス製品を積み上げていくことで、加速度的な成長が可能な収益構造
 - ✓ 当社売上高のうち、約30%がライセンス収入
 - ✓ 量産前提案件に注力し長期的なライセンス収入を狙う（量産案件の車載製品はライフサイクルが長い）

売上高

=

受託開発収入

+

量産台数

×

ライセンス単価

1

独自アルゴリズムの進化

画像認識ソフトウェアに
特化した研究開発活動

量産実績とともに技術や
ノウハウが蓄積



2

量産案件獲得 → 受託開発収入

顧客の車載カメラやドライブレコーダー向けに
カスタマイズ/実装

量産案件に注力

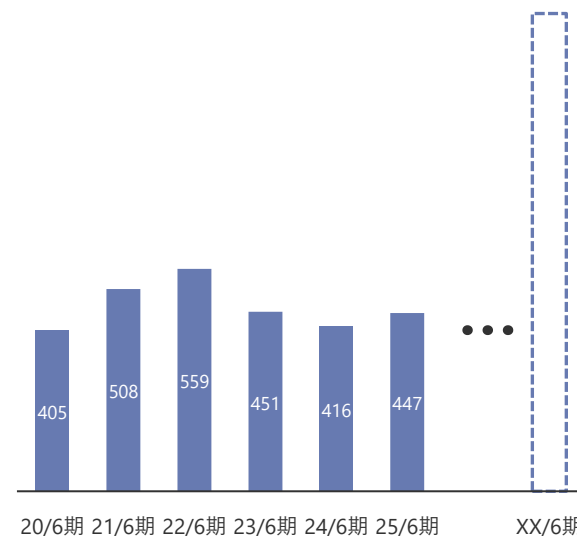
3

量産開始 → ライセンス収入

搭載数量に応じて、ライセンスロイヤリティを受領

車載製品は生産ライフが長く、
長期にわたりライセンス収入が発生

年度別量産台数 (千台)



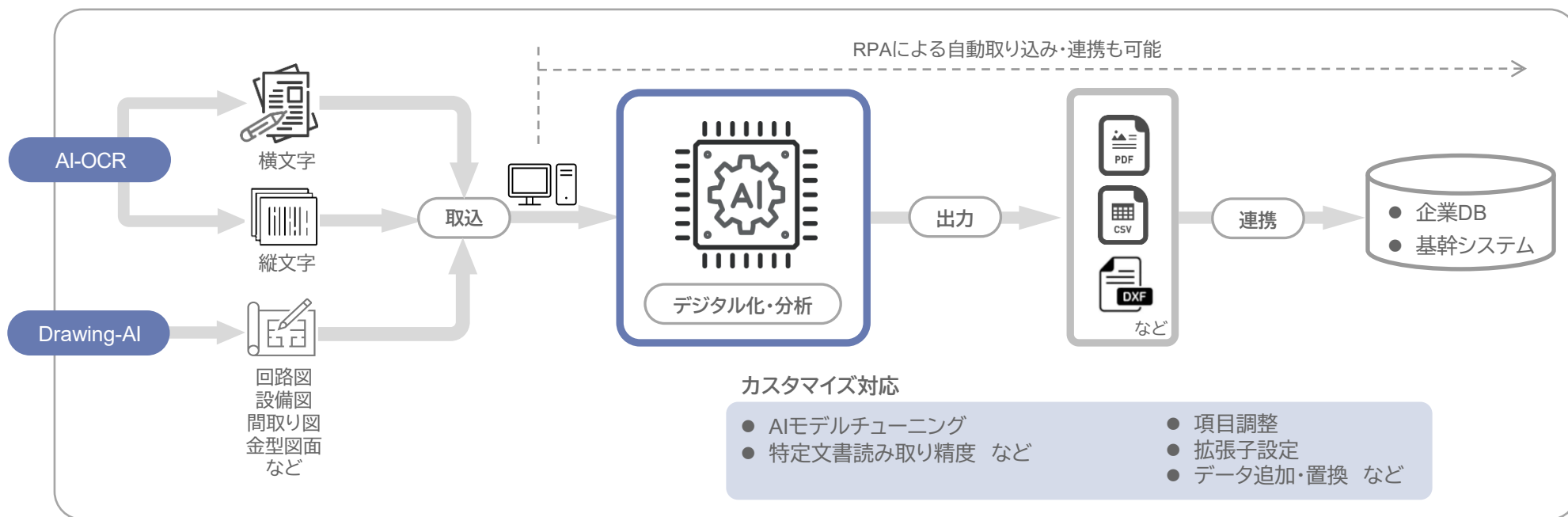
量産に向けて複数製品の開発中、開発後は、順次量産フェーズに移行し、当社のライセンス収入が積み上がる

収益形態		—	受託開発収入			ライセンス収入				
活動ステータス		商談中	PoC	量産開発 量産開発中	量産間近	量産中				
モビリティ	車載カメラ	国内／海外の 新規・既存顧客より、 引合い・商談予定				ADAS・DMS／Tier1				
						ADAS／Tier1				
			ADAS／Tier1			※量産に向け進捗想定				
			DMS／OEM			※量産に向け進捗想定				
	ドライブレコーダー		✓ 開発フェースから量産フェーズへの移行に連 動し、当社売上高も、順次、「受託開発 収入」から「ライセンス収入」へ			ADAS／Tier1				
						ADAS・DMS／Tier1				
						ADAS・DMS／Tier1				
						BIPROGY 無事故プログラム				
						ADAS・DMS／Tier1				
						ADAS・DMS／Tier1				
						ADAS／Tier1			※量産に向け進捗想定	
						ADAS・DMS／Tier1			※量産に向け進捗想定	

✓ 開発フェーズから量産フェーズへの移行に連動し、当社売上高も、順次、「受託開発収入」から「ライセンス収入」へ

※昨年まで記載していた「スマートインフラ」については、P8記載の事業領域の変更に伴い削除

Mobility Solutionsでの画像認識技術のナレッジを応用し、様々なビジネス領域に特化した軽量かつマルチモーダル*なLLM**を開発し、特定項目を高精度に抽出可能



横文字/縦文字の活字や手書き文字、
図面を高精度で認識

読み取り領域の設定レスで
素早く正確に情報抽出

柔軟なカスタマイズ対応
オンプレミス型OCRで高セキュア

単純なAI-OCRだけでなく、画像認識技術やLLMを用いたDXソリューションを展開



大手製造業

課題

FAXによる文面を処理する業務の効率化を行いたい。

取り組み

非定型注文書のデータ化、自動抽出機能及び一定のロジックに基づいたデータ加工、システムへの転記。

導入後の変化・実績

活字から手書き文字、さらに印刷状態が悪い注文でも対応可能で、読み取り精度による大幅な業務効率化。



大手教育関連業

テスト採点の効率化・正確性を担保したい。

縦書き・数式・記号など学生の手書き答案用紙をAI-OCRで読み取り。

データ化の上、採点作業を効率化。記述式の部分点も自動算出し、採点時間を大幅削減。



大手自動車メーカー

道路にある交通情報を読み取り、データを活用したい。

車載カメラで搭載した画像から道路の交通情報看板を検知し、文字認識をするOCR機能を提供。

地図の自動更新やリアルタイム性の高い交通情報などにデータを利用。

- 
1. 会社概要
 2. 事業内容
 3. 市場環境
 4. 当社の強み
 5. 成長戦略
 6. リスク情報

Make Things Intelligent

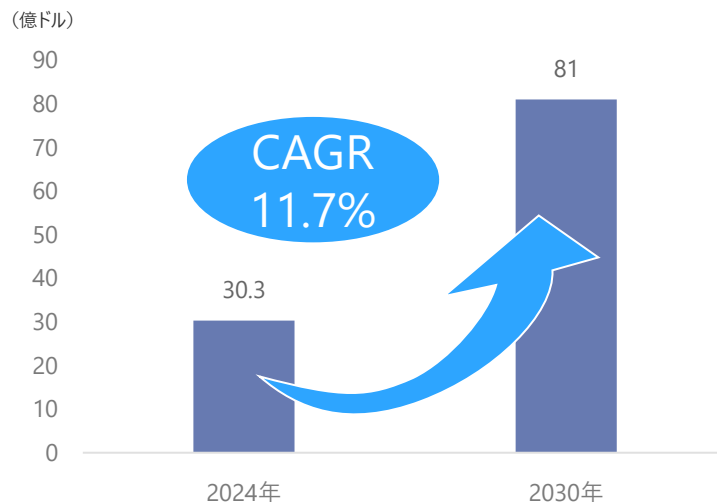
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

外部環境

- EUでは、2024年7月以降発売の新型車にドライバー疲労監視システムの搭載が義務化され、さらに、2026年7月以降はドライバーの注意散漫監視システム（ADDW）の搭載も義務付けられるなど、各国で安全規制が強化
- 日本国内においても、輸出車両への対応や安全意識の高まりから、DMSの標準搭載が今後進む見込み
- カメラ映像や各種センサーデータをLLMと画像認識モデルの組み合わせで解析し、状況を説明・判断する高度機能も登場

市場見通し

ドライバーモニタリングシステム（DMS）の世界市場規模予測^{*1}



- DMS市場は、安全運転支援のニーズ拡大と技術革新、世界各地の規制強化を追い風に、今後も力強い成長が見込まれる
- 日本市場においても、EUの規制動向や国内メーカーの戦略次第で成長機会は大きく、車両安全性への関心の高まりとともに、DMS標準装備の加速化が見込まれる

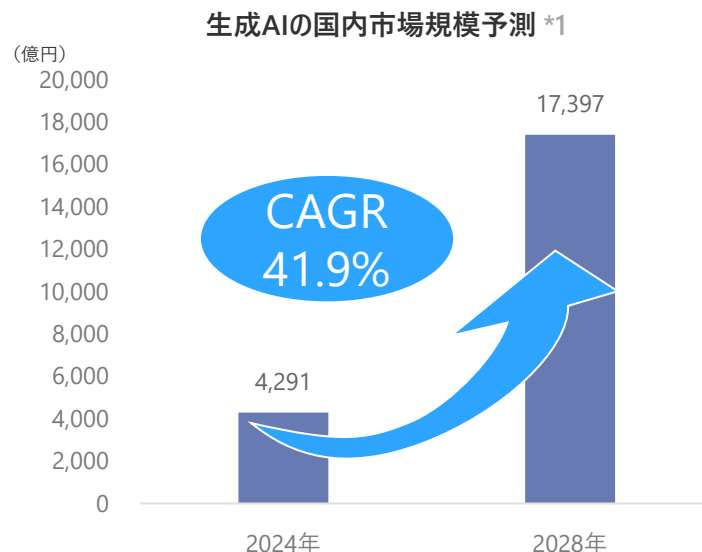
当社 活動進捗 <概要>

- ADASとDMSのラインナップが充実
- ボッシュ株式会社と資本業務提携し、共同開発を開始
- 大手自動車メーカーとの中長期の共同開発契約につき協議中

外部環境

- 近年の労働力不足・人材不足を背景として、働き方改革やDXの推進を通じた業務変革に取り組む企業が急増
- 生成AI及びLLMの登場により、従来AIとの併用・連携が進み、これまで以上に業務変革やイノベーション創出が進展する見込み

市場見通し



- 世界中でLLMの開発やLLMをベースとした新規サービス／ソリューションの創出、実用化に向けた取り組みが加速しており、国内ベンダーも、国産LLM開発やLLM導入支援ソリューションなどの体系化を進めている
- 現状では、生成AIシステムを構築する基盤モデルや生成AIを搭載したアプリケーションを単体で利用することが多いが、回答精度向上に向けたRAGの活用、既存の基盤モデルをベースとしたファインチューニング（追加学習）の普及による独自の基盤モデルの開発が活発化し、生成AIの適応業務領域が広がることで、2028年には1兆7,397億円が予測されている

当社 活動進捗 <概要>

- 複数社へDXソリューションを提供中
- 製造業DXを支援する図面解析AI「Drawing-AI」をリリース
- LLM技術を活用し、更なる機能向上に向けて研究開発が進行中

- 
1. 会社概要
 2. 事業内容
 3. 市場環境
 4. 当社の強み
 5. 成長戦略
 6. リスク情報

Make Things Intelligent

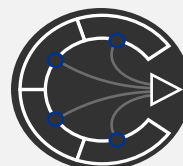
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

自動車業界で求められる最高品質基準に適合した技術を、多様な業界へと拡大展開することで、新たな成長機会を創出



①軽量・高性能な画像認識技術

世界規模のベンチマークテストで1位を取得した高い技術力×ローエンドSoC*でも搭載可能な実装性



②ADAS量産開発経験とノウハウ

多数の量産開発実績、蓄積されたノウハウを駆使し、信頼性の高いソリューションをご提供



③顧客ニーズに応じた迅速な対応力

長年培ってきた経験から、お客様の課題・ニーズに対して最適な技術提案とカスタマイゼーションが可能



④優秀な多国籍エンジニア

多国籍かつ多様性に富んだエンジニアチームを擁しており、世界中から優秀なエンジニアが集結

自動車業界での品質の高さが他業界にもたらす価値

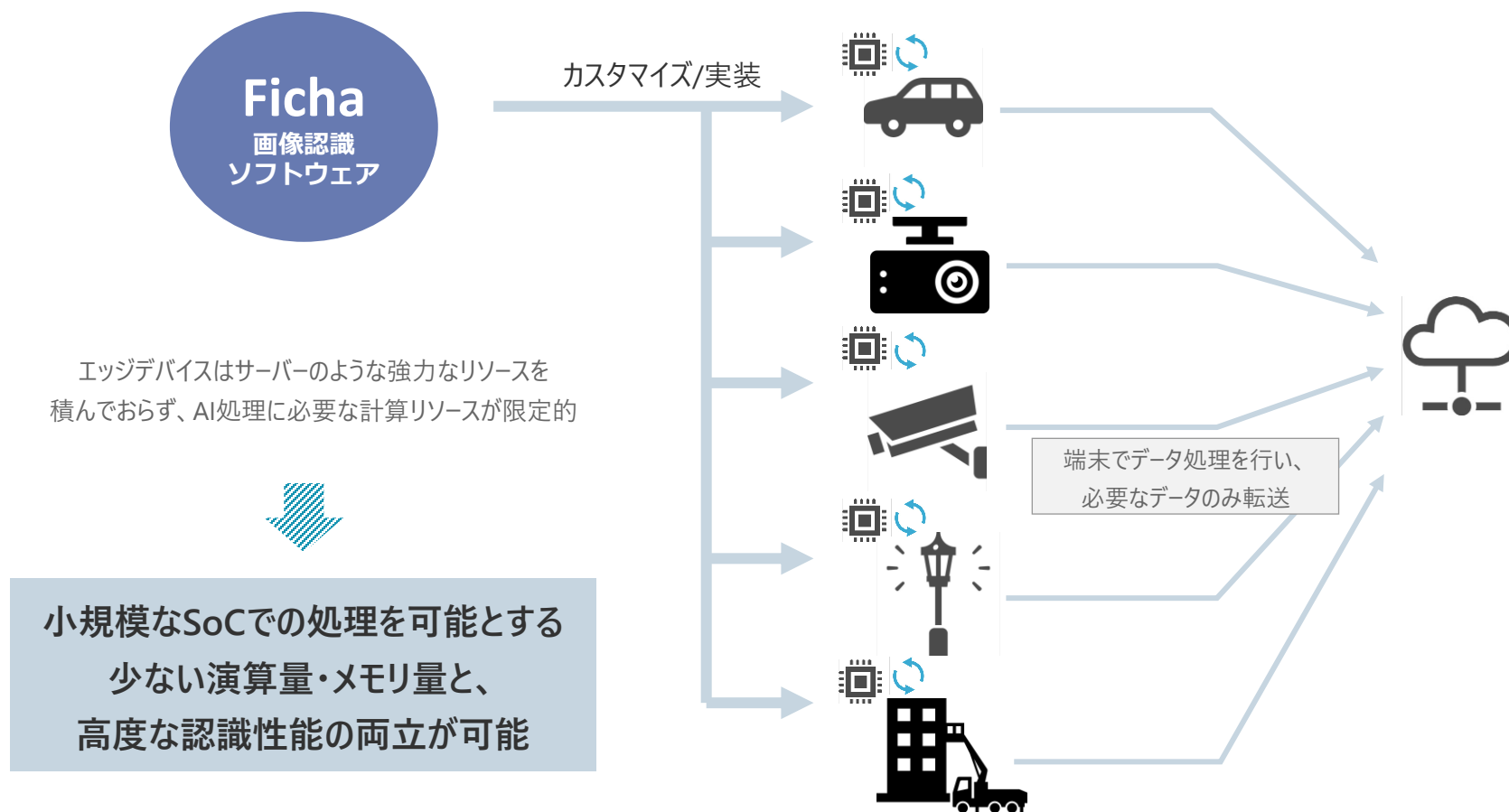
自動車業界で求められる高品質技術は、他業界でも最高レベルの技術として提供可能

安定稼働・リアルタイム性・低消費電力が当たり前の自動車業界の厳しい基準を全ての製品開発に適用



* ローエンドSoC：コスト重視でCPU/GPU性能やメモリが限られる省電力なエントリー帯チップ

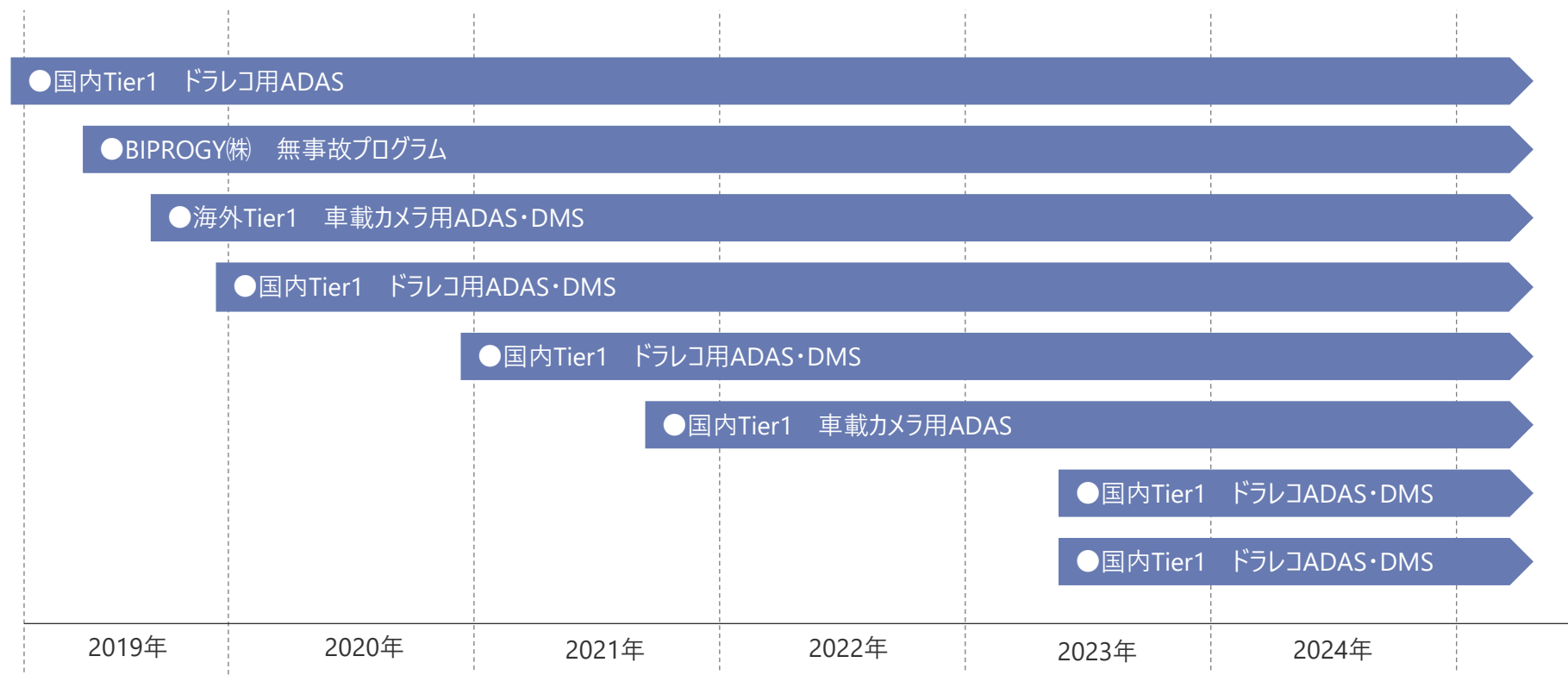
- 独自のアルゴリズムにより、精度を落とさず軽量化を実現
- 高性能なモデルを低スペックなエッジAIデバイスに実装することが可能
- 当社で大規模なデータを保有し、少ない顧客データで高性能なモデルを開発可能



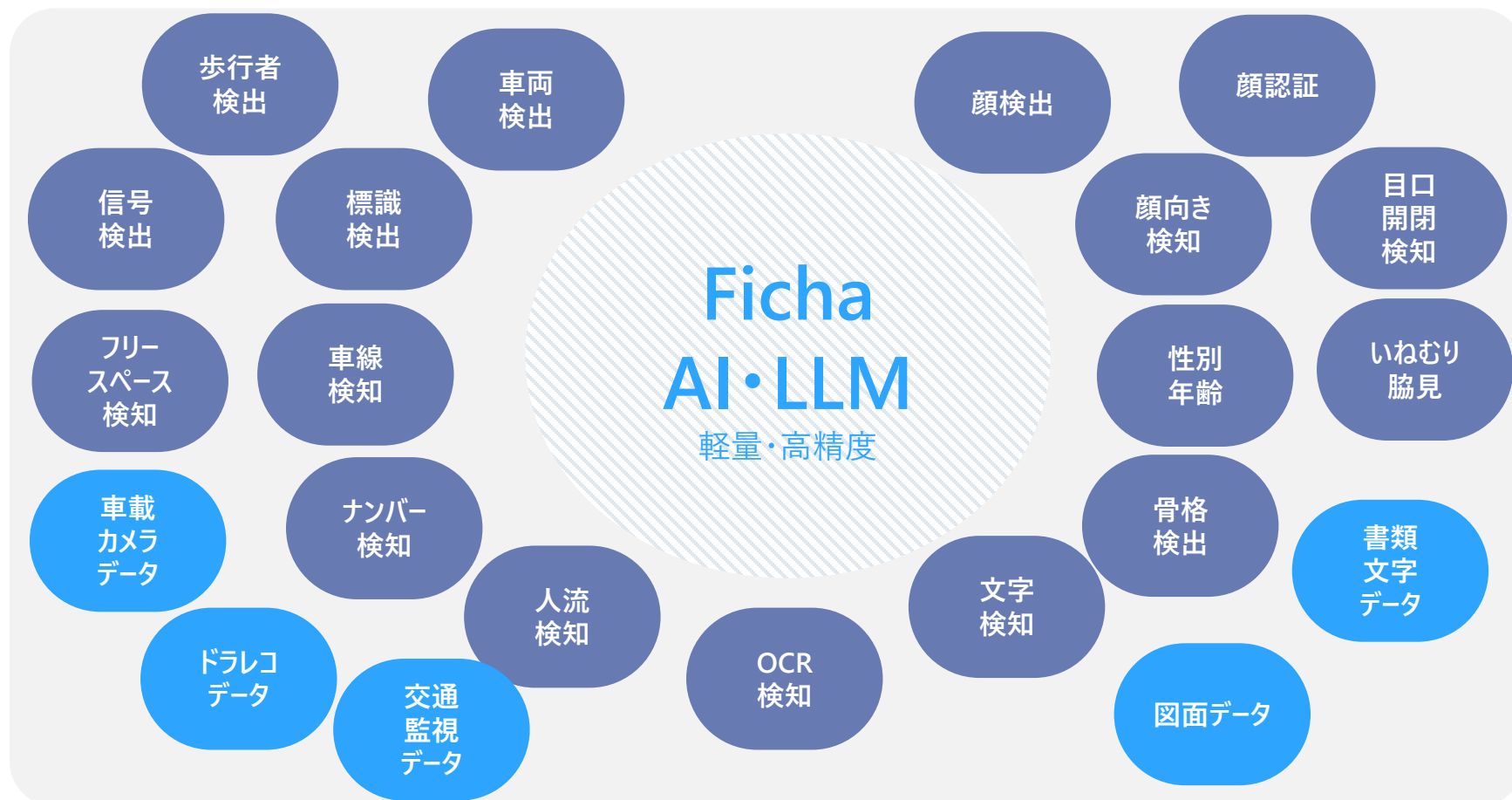
■ エッジAIのメリット

	クラウドAI	エッジAI
1 処理速度	 高遅延 クラウド上でデータ処理が行われるため、遅延が発生	 低遅延 AI処理がエッジでリアルタイムで行われる
2 コスト	 高い 通信コスト、サーバー設備のランニングコストが高い	 安い 通信コストとAI処理コストを節約
3 消費電力	 大きい 大型サーバー設備を使用するため、消費電力が大きい	 小さい 低消費電力チップでAI処理が行われる
4 セキュリティリスク	 高い データをサーバーに転送するため、機密情報の拡散リスクが存在	 低い データをサーバーに転送しないため、セキュリティリスクが限定的

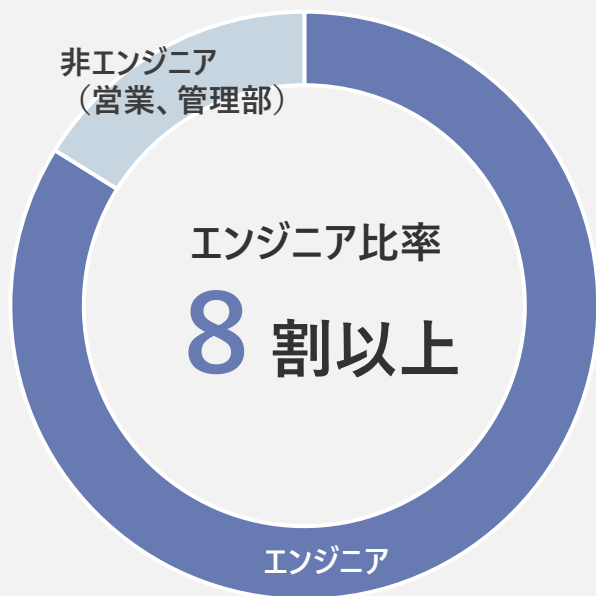
- BIPROGY(株)の無事故プログラムサービスに使用されるドラレコに、信号無視、一時停止不停止、速度違反検出のソフトウェアを搭載し、2019年2月よりサービス開始
- 歩行者・車両検出及びDMSソフトウェアが国内外Tier 1の自動車メーカーの製品に搭載
- 多数の量産開発実績、蓄積されたノウハウを駆使し、信頼性の高いソリューションを提供



- 長年培ってきた経験から、お客様の課題・ニーズに対して、最適な技術提案とカスタマイゼーションが可能
- 豊富なAIモデル、ビッグデータを保有しており、少ない顧客データで効率的な開発が可能



- 世界各国の優秀なエンジニアを採用
- AIアルゴリズムエンジニア、組込エンジニアやアノテーションチームを含む、すべての開発スタッフを自社採用
- 一貫した完全内製開発プロセスにより、迅速かつ柔軟な対応が可能



多国籍なエンジニアで構成

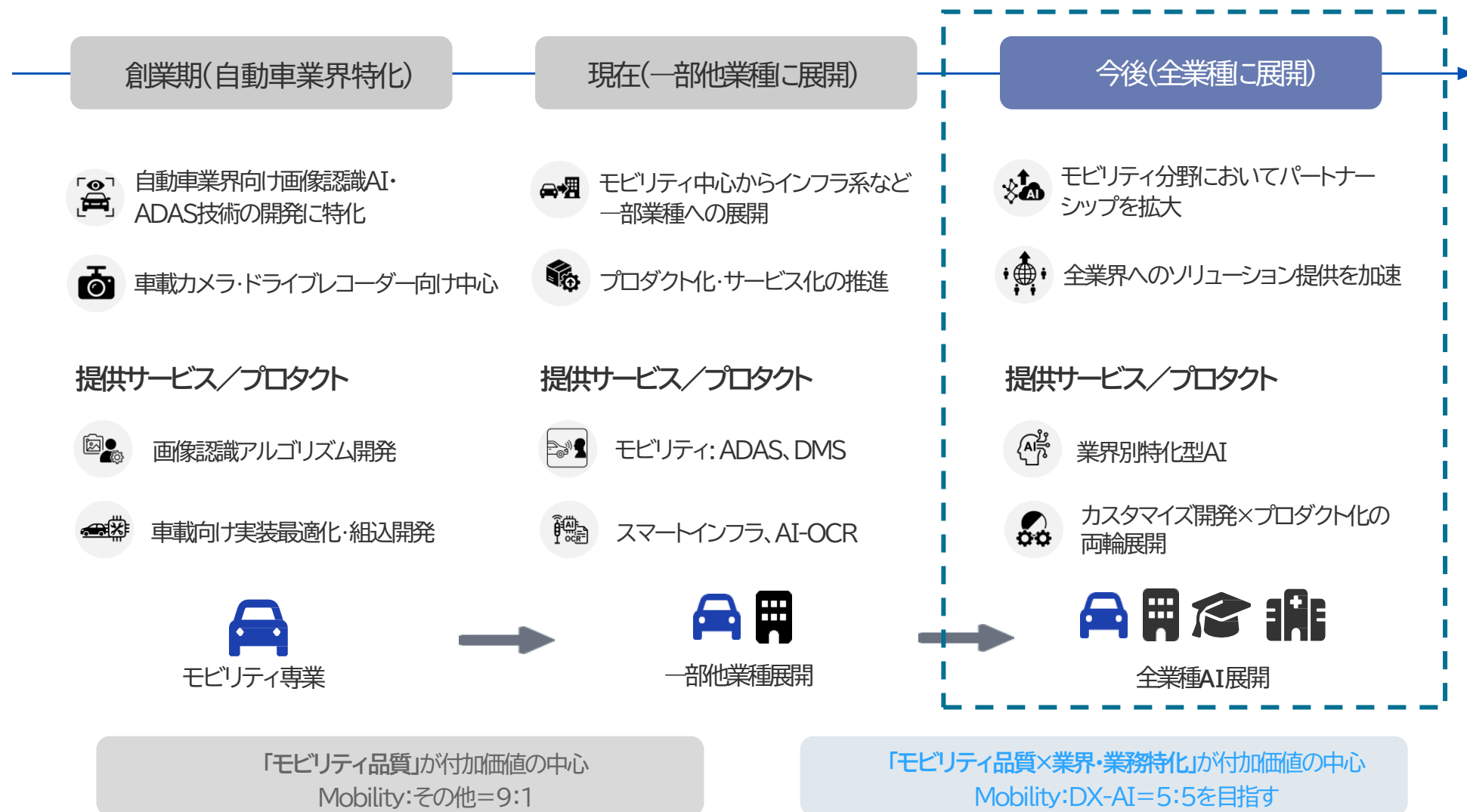


- 
1. 会社概要
 2. 事業内容
 3. 市場環境
 4. 当社の強み
 5. 成長戦略
 6. リスク情報

Make Things Intelligent

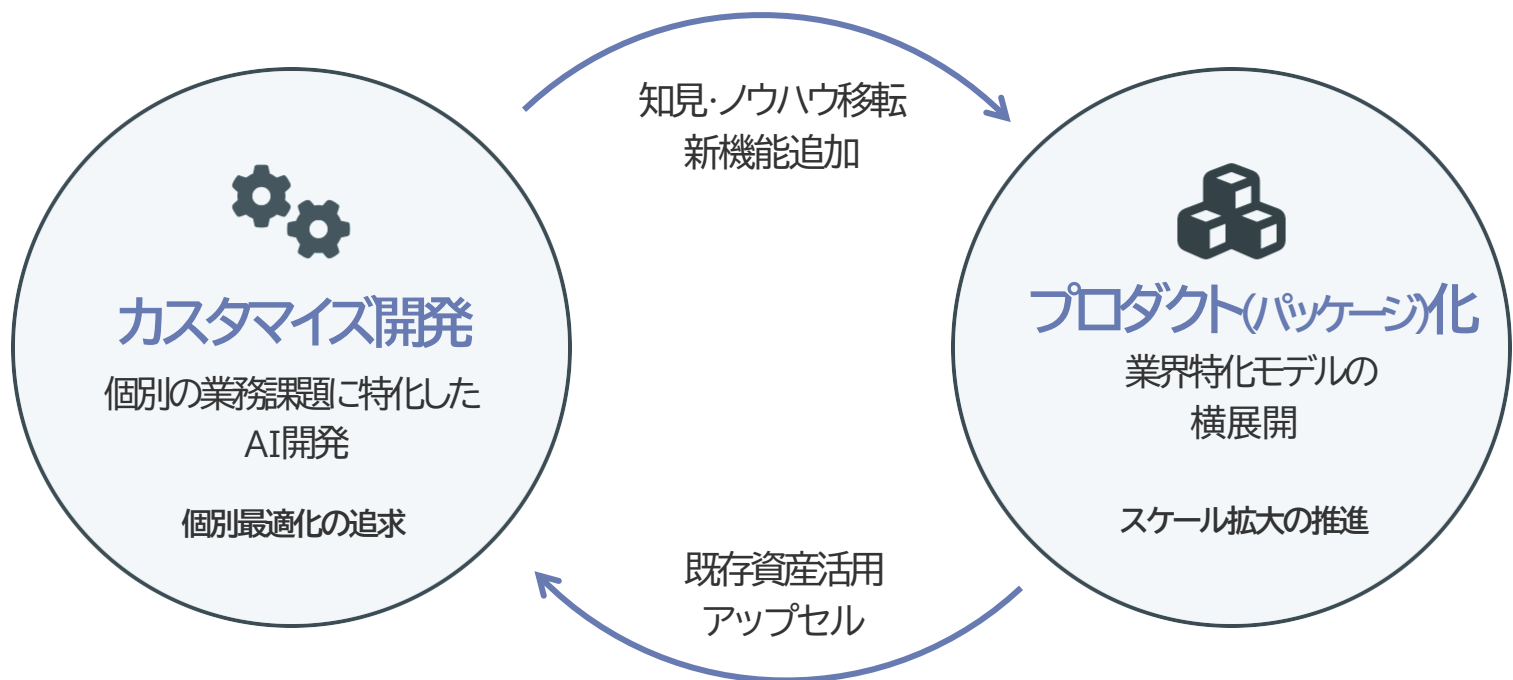
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

モビリティ分野で培ったAI技術を拡大展開し、他業種展開を加速



2つのビジネスモデルを両輪とすることで、品質と拡張性を両立

カスタマイズ開発からプロダクト化へと知見移転を加速させ、業界特化型ソリューションのラインナップを拡充



カスタマイズ開発の強み

- 業界先進企業の深い課題に対応
- 高付加価値の実現
- 新たな業界知見の獲得

プロダクト(パッケージ)化の強み

- 導入スピード・コスト効率の向上
- 多様な業種・規模への対応
- ストック収益モデルの構築

(単位：百万円)

	2025年 6 月期		2026年 6 月期	
	当初予想	実績	予想	前期実績比
売上高	558	497	540	+ 8.7%
うち、受託開発収入	390	339	395	+ 16.4%
うち、ライセンス収入	167	157	145	△8.0%
営業利益	2	△9	17	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1	△38	14	—

(2025年6月期実績)

- 大手自動車メーカーとの中長期開発契約において内容の見直しが行われ、当初計画していたマイルストーンに変更が生じた結果、受託開発収入が当初予想より減少
- 長期的な成長見通しは維持しつつ、会計上は、保守的に固定資産の減損損失を計上

(2026年6月期業績予想)

- 受託開発収入は、大手自動車メーカーとの共同開発案件、DX-AI Solutionsの需要増から増加見込み
- ライセンス収入は、ドラレコ製品の生産サイクルが終盤を迎え、若干減少見込み

- 自動車部品世界シェア最大手であるボッシュとの資本業務提携契約を締結
- 両社グループの関係を一層深化させ、長期的な戦略パートナーシップを構築
- 当社からボッシュへ、先進運転支援システム（ADAS）向け画像認識分野の専門的なエンジニアリングサービス及び技術を提供
- 開発パイプライン拡充による長期的な収益基盤の確立を図る
- 第三者割当増資の資金充当状況 (単位：百万円)

資金使途	調達額	既支払額	支出予定時期及び見通し
事業拡大のための採用費 及び人件費	126	79	2026年6月までに充当予定
開発環境構築のための 設備投資	50	52	2024年6月までに充当
計	176	131	

(※) 既支払額は2025年6月末時点

- 
1. 会社概要
 2. 事業内容
 3. 市場環境
 4. 当社の強み
 5. 成長戦略
 6. リスク情報

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

経営において認識される主なリスク

以下には、当社が経営においてリスク要因となりうる主な事項について記載しております。（有価証券報告書「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照下さい。）

認識する リスク	リスクの内容	顕在化する 可能性/時期	影響の程 度	対応策
市場動向に ついて	当社グループは、車載カメラ及びドライブレコーダー用画像認識ソフトウェアの開発を主力事業としております。今後、新たな法的規制や業界団体による規制の導入、その他予期せぬ要因等により、顧客企業におけるソフトウェア開発の外部委託の縮小や内製化若しくはニーズの変化、新車販売動向の低迷等、市場規模が縮小する動きがみられた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。	中程度 /中長期	中	常に市場動向を把握し、市場動向に応じた柔軟な対応を行うとともに、他市場への展開を積極的に進めることでリスクの低減を図ってまいります。
技術動向に ついて	当社グループの技術革新が想定どおりに進まない場合や、予想以上の急速な技術革新や代替技術・競合商品の出現、依存する技術標準・基盤の変化等により、当社グループの製品が十分な競争力や付加価値を確保できない場合等には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。	低程度 /中長期	大	優秀な人材の採用や子会社を含めた研究開発に積極的に取り組んでおります。また、常に市場動向を把握し、技術革新への対応を講じることにより、今後も競争力のあるサービスを提供できるようリスクの低減を図ってまいります。
ライセンス 収入の変動 について	当社グループのライセンス収入は、当社ソフトウェアが搭載された製品の製造、販売または使用に伴い認識されますが、製品の製造、販売または使用は、顧客の販売計画や営業活動に依存するため、顧客の販売計画が変更等された場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	高程度 /中期	中	当社ライセンス製品の採用件数を増やしていくことで、特定のライセンス製品の販売状況の変動によるリスクの低減を図ってまいります。
特定顧客への 依存度につ いて	当社グループの売上高は、特定の主要顧客に依存しており、2025年6月期においては、売上高上位3社に対する売上高が売上高全体の67.0%を占めております。これら主要顧客との取引関係や自動車業界の動向に変化が生じた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	中程度 /中期	中	主要顧客との良好な関係の維持に努めるとともに、他市場を含めた新規顧客の獲得を積極的に進めることでリスクの低減を図ってまいります。

- ・本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意下さい。
- ・これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。
- ・また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- ・当資料のアップデートは本決算の発表時期を目途として開示を行う予定です。なお、次回の発表は、2026年9月頃を予定しております。